QScan 2023.2.0
Release Notes

ビジュアル・グラフィックス株式会社

重要なお知らせ 2
新機能 2
GPU アクセラレーションの使用 2
音声チャネル数の検査に関する仕様変更 2
ARIB カラーバーの検出 2
ARIB クローズドキャプションの検出 3
レポートテンプレートの別名保存 3
分析済みデータの削除（システムのクリーンアップ） 3
ライセンスの無効化が非表示に 5
バグフィックスおよび改善点 5
既知の問題・制限事項 6

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

重要なお知らせ

- V3.x または v2021.x を運用されている場合は新たに v2023 用のライセンスが必要です。既に v2023.0 以降へアップデート済みの場合、ライセンス更新は必要ありません。各バージョンからのアップデート方法は別資料のアップデートガイドをご参照ください。
- PDF レポートの作成手法の変更に伴い、v2023.0 以降は Windows7 では動作しません。

新機能

GPU アクセラレーションの使用

一部のバックグラウンド処理を GPU で実行できるようになりました。プロジェクト設定に「GPU アクセラレーションを使用」オプションが追加されており、これを有効にすると以下が GPU で処理されます。

- YUV - RGB 変換
- EBU 103 フィルタリング処理
- 一部のパラメータに必要な DCT 変換

音声チャネル数の検査に関する仕様変更

音声チャネルに関するフォーマットチェックで以下の変更があります。

オーディオチャネルの総数（ヘッダーフォーマットチェック）
これまで「音声フォーマットチェック」カテゴリ内にあった「チャネル数」と同じです。ファイルに含まれる音声チャネルの総数を検査します。このバージョンからヘッダーフォーマットチェックに移動し、閾値名も変更されました。以前のバージョンで作成されたテンプレートに含まれる「チャネル数」の閾値は、この新しい閾値へ自動的に変換されます。

ストリームあたりのチャネル数（音声フォーマットチェック）
新たに追加された閾値です。各音声ストリームに含まれるチャネル数を検査します。

ARIB カラーバーの検出

ARIB STD-B66 準拠のカラーバーに正式に対応しました。「テストパターン」の閾値=75 で検出されます。これまでは ARIB カラーバーに正式に対応しておらず、コーデックによって検出可否が異なっていました。

ARIB クローズドキャプションの検出

フォーマットチェック ＞ クローズドキャプション の閾値に「ARIB STD-B37」の項目が追加されました。

レポートテンプレートの別名保存

レポートテンプレートのメニューに「名前を付けて保存」が追加されました。選択中のレポートテンプレートに変更を加えて別名で保存できるようになりました。

分析済みデータの削除（システムのクリーンアップ）

分析済みデータの保存期間に期限を設定できるようになりました。これは、分析済みデータがシステム内に大量に残り続けることによる影響を回避する目的です。（システムの安定性やレスポンスへの影響）

※　本機能を使用すると、ファイル分析に関連するすべてのデータがシステムから削除されます。プロジェクト内で Trashbox アイコンをクリックしてファイル分析を削除した場合はファイルの入力情報が残り、必要に応じて後で再分析を行えますが、このシステムのクリーンアップ機能を使用して削除した場合はデータベースからも削除されるため、入力情報は残らないことに注意してください。

すべてのファイルに影響するシステム設定と、プロジェクト単位での設定の２種類の方法があります。

グローバルの設定（設定 ＞システム）

この設定はシステム内のすべての分析に影響します。

A：指定した日付の範囲のデータを削除する（手動による削除）

1. 日付の範囲を指定します。
   例：3/1/2023 ～ 3/20/2023 で設定した場合 ：削除対象となるのは、3/1 から 3/19 までに分析されたものと、その期間内に変更された分析です（※3/20 は範囲に含まれません）
2. 「削除」ボタンをクリックするとデータが削除されます。クリック前に「プロジェクトのクリーンアップ」にチェックを入れておくと、空になったプロジェクトが自動的に削除されます。

B：指定した日数よりも古いデータを削除する（手動による削除、または自動の削除設定）

1. 日数を入力し、「削除する」を選択します。
2. 削除の実行を確認するウィンドウが表示されるので、YES を選択するとデータが削除されます。「削除する」を選択した状態にしておくと、期日を経過したときにデータが自動的に削除されます。

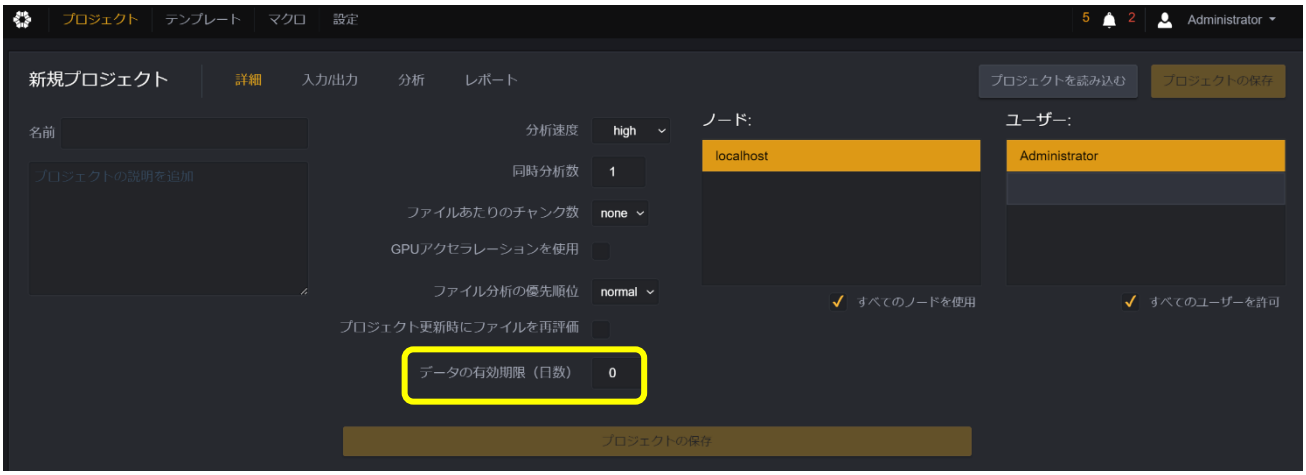
C：空のプロジェクトの削除

「空のプロジェクトを削除」をクリックすると、分析データが削除されて空になったプロジェクトが削除されます。

プロジェクト毎の設定（プロジェクト設定内）

設定した日数を経過した分析をプロジェクトから自動的に削除します。

※ 自動的に削除しないように設定するには、日数を 0 に入力します。



※ プロジェクト内の設定が、グローバル設定よりも優先されます。

ライセンスの無効化が非表示に

ユーザーが意図せずライセンスを無効化してしまうことを避けるために、UI 上に「ライセンスの無効化」の機能が表示されなくなりました。必要な場合は以下の URL から機能にアクセスできます。

localhost:8080/license/deactivate

バグフィックスおよび改善点

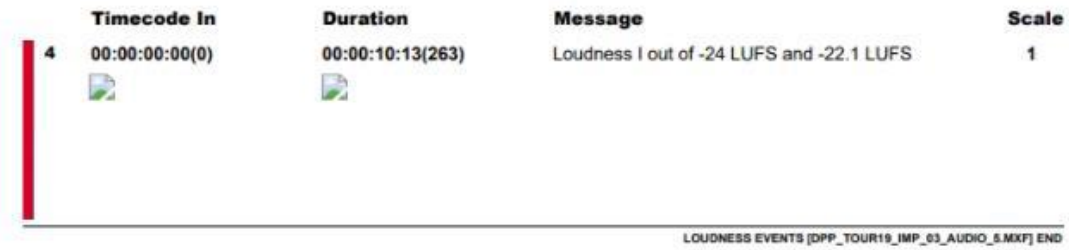
- 「PDF 作成中」ステータスから進捗しない問題の修正
- 機能改善：レポート構成を変更すると既存ファイルの PDF レポートが自動的に更新されるように
- PDF レポートの表示に関する問題の修正（映像/音声フォーマットチェックの閾値のいくつかが、ヘッダーフォーマットチェックの閾値のセクションに表示される問題）
- PDF レポートにおいて、イベント詳細および閾値に表示されない項目の修正（音声ストリーム数、チャンネル数、平均音声位相、映像の有無）
- 音声イベントの尺長のカウントが HTML と PDF レポート間で異なる問題の修正
- レポート内において個別の音声イベントに対する尺長（フレーム数）と深刻度に対するイベントの総フレーム数の表示が異なる問題の修正
- PDF レポートに表示するイベントの最小の深刻度の設定が適切に動作しない問題の修正（設定内容に関わらずすべてのイベントが表示されていた）
- 部分分析で開始 TC と尺長が設定された場合、PDF レポートのサマリーに尺長の情報が表示されない問題の修正
- IMF パッケージの PDF レポートがダウンロードされない問題の修正
- レポートテンプレートに HDR 情報が含まれ、プロジェクト設定で HDR パラメータが無効に設定されている場合、PDF レポートの HDR セクションに「undefined」と表示されて MaxFALL と MaxCLL のグラフが表示されない問題の修正（HDR パラメータが無効に設定されている場合、HDR セクションは非表示となるように変更）
- 閾値のスケールを「1」に設定すると PDF レポートで「FYI」として表示される問題の修正
- v2023.0.3 で変更された PDF レポート内の PSE レポート表示の変更の撤回（今後は分析項目で PSE が有効に設定されている場合、閾値の有無に関わらず PDF レポートに PSE 情報が表示される）
- HTML レポートに変更を加えた場合に PDF レポートが自動的に更新されない問題の修正（注：レポートの更新には時間がかかる場合がある）
- HTML レポートに手動で目視イベントを追加する場合、映像/音声イベントのどちらであるかと明示できない問題の修正
- 既存のプロジェクトに新しいファイルを追加すると既存のファイルを再評価するボタン（オレンジ色のアイコン）が表示される問題の修正
- 閾値のアクションで「停止して移動」を設定してプロジェクトを保存すると、プロジェクトの編集時に移動先を削除できない問題の修正
- 閾値で「停止」を選択した場合、PDF レポートが自動的に生成されず、メールも送信されない問題の修正

- 機能改善：部分分析および閾値の区間設定の TC フィールドに無効な形式で入力されると警告メッセージが表示されるように
- 部分分析で無効な開始 TC が設定された場合に分析が何度もループされる問題の修正
- 部分分析の開始 TC と尺長を「hhmmssff」形式で指定できない問題の修正（分析が実行されずに誤ったレポートが作成されていた）
- 音声位相に閾値の区間設定を適用するとイベントが表示されない問題の修正
- 閾値の区間設定で「From tail」と「Duration」の組み合わせが機能しない問題の修正
- フォーマットチェックを含むマクロが適切に動作しない問題の修正（フレームレートが 25fps または 30fps のいずれにも該当しないことを検出するマクロが適切な結果を提供しなかった）
- マクロを含むプロジェクトをエクスポートし、新規プロジェクトにロードすると一部のマクロが適用されない問題の修正（注：別のマシンでは内部の ID が異なる可能性があるため、同一のマシンにプロジェクトをロードする場合のみ動作が保証される）
- 一部のマクロでタイムコードとフレーム番号の情報が表示されない問題の修正
- 旧 API コールに旧 TC 形式を使用するとコールが受け付けられない問題の修正
- プロジェクトレポートのダウンロード時にシステムがエラーを返す問題の修正
- IMF パッケージを含むプロジェクトの削除の際に分析データがシステムディスクに残る問題の修正
- オーディオの詳細ページにおいて、特定の TC へ移動するためのウィンドウが UI の後ろに隠れてしまう問題の修正
- ネットワークドライブから多量の DPX を分析するとタイムアウトによりエラーになる問題の修正

既知の問題・制限事項

- ラウドネス分析オフセットの値が設定済みの状態でテンプレートを結合でロードしてプロジェクトを保存すると、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルト（空欄）に戻る（回避方法：プロジェクトの保存後にラウドネスオフセットの値を入力しプロジェクトを保存する）
- HTML レポートにおいてファイル属性（フレームレートおよびアスペクト比）の表示が不適切である
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾部分が表示されない（回避方法：タイムラインをズーム表示する）
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度などを変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC にファイルの先頭フレームの TC が表示される
- ラウドネス分析オフセットを指定すると、ラウドネスイベントの開始 TC が 1 フレーム前倒しで表示される
- Gamut Check のイベント詳細がレポートに表示されない
- HTML レポートでイベントがタイムコード順で表示されないことがある
- システムのクリーンアップが一時停止中のプロジェクト内に適用されない
- PDF レポートのフォーマット一覧でクローズドキャプション「ARIB STD-B37」が表示されない
- チャンクベース分析において、分析の終了処理に時間がかかることがある

- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（これらの不一致は主にデッドピクセルの検出に関係しており、現在のアルゴリズムが計算に大量のフレームを必要とすることが原因）
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある
- IMF パッケージの PDF レポートにおいて、音声イベントのサムネイルは表示されません。（音声のみを含むファイルであり、映像のサムネイルを伴わないため）



	Timecode In	Duration	Message	Scale
4	00:00:00:00(0)	00:00:10:13(263)	Loudness I out of -24 LUFS and -22.1 LUFS	1

LOUDNESS EVENTS [DPP_TOUR19_IMP_03_AUDIO_5.MXF] END

- 整数でないフレームレートのファイルで、音声イベントの尺長のカウントが ±1 フレームの誤差が発生する場合がある

以前のバージョンの QScan(2021.x 以前)で分析されたファイルを操作する場合、一部の機能が期待どおりに動作しない場合があります。すべての機能が正しく動作するように、ファイルを再分析することをお勧めします。特にタイムコードに関連するもの(TC へのジャンプ、目視イベント、タイムラインの TC 表示など)が影響を受けます。これは、データベースで新しい TC の処理方法が使用されることによるものです。